

2021年度 大気中水銀バックグラウンド濃度等の モニタリング調査結果について



環境省では、国内の発生源による影響を直接受けにくい地点(バックグラウンド地点)である沖縄県辺戸岬及び秋田県男鹿半島において、水銀の大気中濃度等のモニタリング調査を実施し、2021年度の結果を公表しました。この調査は2007年度より毎年行われています。

今年度の調査においては辺戸岬、男鹿半島ともに大気中水銀濃度等は、指針値等を十分下回り、これまでの調査結果とも大きな乖離はありませんでした。

大気中の形態別水銀濃度の合計の年平均値は辺戸岬において $1.7\text{ng}/\text{m}^3$ 、男鹿半島において $1.6\text{ng}/\text{m}^3$ であり、環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値(年平均値 $40\text{ng}/\text{m}^3$)を十分下回る数値でした。

また、降水中的水銀濃度の年平均値は辺戸岬において $5.3\text{ng}/\text{L}$ 、男鹿半島において $5.5\text{ng}/\text{L}$ でした。降水中的水銀濃度の指針値等はありませんが、水銀に関する水質汚濁に係る環境基準値 $0.0005\text{mg}/\text{L}$ ($500\text{ng}/\text{L}$) に比べても低い値となっています。

当社では、水銀をはじめとした有害金属の環境分析、作業環境測定などにおいて、長年の実績があります。お気軽にお問い合わせください。

資料 [2022年9月27日付 環境省報道発表資料](#)

無機分析箇所 赤石大輝